

第1学年 国語科学習指導案

書式は学校の指定に合わせて調整してお使いください。

日 時 令和 年 月 日 () 第 校時
場 所
指導者

1 単元名

「あいうえおのことばをあつめよう」 教材名「あいうえおのことばをあつめよう」

2 単元の目標

次の学びを目指す。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話す。身近な語句の意味を確かめ、話や文章で使う。思考・判断・表現では、身近な物の名前を集め、初めの音で分けて友達に伝える。交流や試行の前後を比べ、音で分けた言葉カードを見直そうとする。

3 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
①音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。身近な語句の意味を確かめ、話や文章で使っている。 〔知識及び技能〕(1)イ・〔知識及び技能〕(1)オ	①「書くこと」において、学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確かめて直している。 (B(1)エ)	①見通しをもって言葉や表現を検討し、交流で気付いた点を基に、自分の読み方や表し方を見直そうとしている。

4 指導上の考察

(1) 単元について

この単元では、言葉の中にある母音と語のまとまりを中心に学ぶ。身近な物の名前を集め、初めの音で分けて友達に伝える活動を組むことで、言葉について知ることと、目的に合わせて使うことを結び付ける。指導要領の〔知識及び技能〕(1)イ・〔知識及び技能〕(1)オとB(1)エに関係する学習である。公式単元一覧では知識事項が中心であるが、本案では言葉を使って見直す活動に関わるB(1)エを関連事項として加えた。成果は、音で分けた言葉カードに示した判断と理由から捉える。

(2) 児童について

(学級の子どもの様子を先生が書く)

(3) 指導について

予想される難しさは、文字の見た目だけで仲間を決めることである。絵の名前を声に出し、最初の音を伸ばさず確かめる。初めの答えを消さずに残し、学習後に何を変えたか、なぜ残したかを比較できるようにする。児童の反応は予想である。実在の学級の姿を示すものではない。読む速さや記述量の差を、そのまま国語の力の差として扱わない。

5 指導と評価の計画（全3時間）

次	時	学習活動	評価規準（評価方法）
第1次	1	○言葉の中にある母音と語のまとまりに関係する既習を振り返る。 ○教材や教師作成の例を見比べ、単元の終わりに残す音で分けた言葉カードの内容を確認する。	既習と語句の理解を見取り、支援の必要な箇所を把握する。
第2次	2 （本時は2時）	○身近な物の名前を集め、初めの音で分けて友達に伝える。 ○必要な語句や資料を整理し、自分の考えを記す。 ○同じ音で始まる言葉には何があるかを中心に交流し、根拠を調べ直して表し方を検討する。	知①（語句や関係の整理）・思①（作成途中の記録・発言）
第3次	3	○音で分けた言葉カードを仕上げ、選んだ言葉や直した理由を伝える。 ○単元の前後の記録を読み比べ、他の学習でも使えそうな考え方を記す。	思①（成果物）・態①（見直しの理由と単元中の記録）



6 本時の指導 (2/3)

(1) 本時の目標

身近な物の名前を集め、初めの音で分けて友達に伝えるとともに、カードに書いた語句や説明を読み直して修正できる。

(2) 学習過程

段階	学習活動 (○主な発問) ・ 予想される児童の反応	指導上の留意点 (◎評価)
導入 (分)	1 前時までの記録を確かめ、今日使う教材や資料を準備する。 ○「同じ音で始まる言葉には何があるか」 【めあて】言葉の中にある母音と語のまとまりについて、自分の考えと理由を表そう。 〈予想される児童の反応〉 ・ 違う物でも初めの音が同じだった。 ・ どこを確かめれば答えられるか、使う教材や資料を見ている。	本時に使う具体例が見える所へ置く。文字の見た目だけで仲間を決める姿が見られても、すぐに訂正させず、どの言葉や経験からそう判断したかを聞き取る。
展開 (分)	2 身近な物の名前を集め、初めの音で分けて友達に伝える。 3 書いたものを読み返し、「同じ音で始まる言葉には何があるか」を観点に、友達へ伝わりにくい箇所を確かめる。 4 必要な語句や構成を直し、直す前後と理由を残す。 ○学習した語や説明をカードに書き、見本や資料と照らして表記・言い方を見直す。 〈予想される児童の反応〉 ・ 違う物でも初めの音が同じだった。 ・ 友達の説明や試した結果と比べ、最初の答えを直すか検討している。	絵の名前を声に出し、最初の音を伸ばさず確かめる。知識・技能では、音と文字の関係や発音を確かめ、姿勢や口の形、声の出し方に注意して話している。身近な語句の意味を確かめ、話や文章で使っている。この姿を、使った言葉や読み書きの様子で確かめる。口頭で説明する、対象を指す、教師に記録してもらうなど表し方を選べるようにする。 ◎①学習カードの語句や説明を読み直し、表記や言い方を確かめて直している。(B(1)エ) (学習カードの修正前後)
まとめ (分)	5 音で分けた言葉カードを確かめ、本時に選んだ言葉や方法と、その理由を伝える。 【まとめ】言葉を比べると、音や意味の共通点と違いが見付かる。 6 最初から変えた点、理由を確かめて残した点を振り返る。 〈予想される児童の反応〉 ・ 自分が選んだ言葉や方法について、確かめたことを理由として説明している。	結論が教師の例と同じかだけで判定しない。同じ音で始まる言葉には何があるかへの答えに、語句や事実を示した説明があるかを見る。課題が残る場合は、次の関連学習でも同じ観点で記録を集める。 ◎知① (音で分けた言葉カードと実際の言葉の使用) ・ 態① (単元を通した試行や見直し)

(3) 本時の評価

おおむね満足できる状況は、身近な物の名前を集め、初めの音で分けて友達に伝えている姿である。初稿・見直した稿・修正理由を基に判断する。文字の見た目だけで仲間を決める場合は、絵の名前を声に出し、最初の音を伸ばさず確かめる。読み書きの速さや発表の回数ではなく、本時の目標に関わる言葉の使い方と判断を捉える。関連する書くことの評価では、学習カードを読み直して訂正した箇所と、その理由を確認する。

(4) 板書計画（縦書き・右から左へ）

縦書きで右から左へ構成する。右端に単元名と本時の問い。その左に、児童が最初に出した考えと比較する例を置く。中央には言葉の中にある母音と語のまとまりを確かめる語句や関係を並べ、線や矢印で根拠と判断を結ぶ。左側に音で分けた言葉カードで残す項目と見直しの理由を置く。左端は本時に理解できたこととその後に使う場面の記録にする。教科書の台詞や文章はこの配布物へ複製しない。

AIが作成した授業案です。授業での検証は未実施です。自校の教材・年間計画・学級の実態に合わせて確認してください。



Threads「三重でAI使うなら」 (@mie_ai_katsuyo)
https://www.threads.com/@mie_ai_katsuyo

LINEオープンチャット
みえ先生ラボ



AI三重